

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371200082		
法人名	特定非営利活動法人 憲友会		
事業所名	グループホーム さち		
所在地	熊本県上天草市大矢野町上字西大平7314番地		
自己評価作成日	平成24年 9月 16日	評価結果市町村報告日	平成24年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区上通町3-15 ステラ上通ビル4F
訪問調査日	平成24年 10月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者、その家族、職員も大きな家の大家族の一員として暮らしています。「ただいま」「行ってらっしゃい、気をつけて」が挨拶です。又、食事に力を入れています。季節の旬の、食材を取り入れて、入居者の方達から喜ばれています。園庭では、緑の芝生、花壇には、赤のハイビスカスや臭いのいいブルメリヤ等が咲き誇っていて、入居者や訪問者の方達を喜ばせています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

目の前には青い海や長崎の普賢岳が臨め、薄緑色の芝生やハイビスカス等の南国を思わせる花々に囲まれたホームである。周囲は別荘地ということで近隣に住む住民も少なく、理事長の意向で設立当初から夜勤は2名体制をとり、家族にとっても安心である。ホーム内は掃除や換気により清潔感にあふれ快適に過ごせる環境になっている。外部から講師を招いて内部研修を開催したり、資格取得も奨励しており、人材育成にも取り組んでいる。入居者には歌や踊りを楽しまれる方がおられ職員も一緒に楽しみながら笑顔を引き出す努力をしている。今後は生活リハビリによる身体機能低下防止に努めると共に、職員のチームワークを活かし、一人ひとりの思いや潜在能力を引き出すケアの支援に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人生の功労者に敬意を表し、個々を尊重すると共に理念を基に実践を行っている。	設立時に理事長が考えた理念を事務所に掲示している。入職時やミーティング時に理念について説明をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動等には、職員全員が積極的に参加し、日常的にも行っている。	別荘地のため近隣に住民は少ないが、地域の清掃作業などには積極的に参加するようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	、近隣の方達と交流している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、課題になった事は、職員ミーティングで話し合い、次回の運営推進会議で、その結果を報告している。	二ヶ月ごとに区長・民生委員・行政・家族代表等の参加で開催されている。ホームの状況報告をし意見を求めている。出た意見はミーティングで話し合い改善するように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の担当者の方達には、書類の書き方で分からない事や、入所の事などで相談に乗って頂いている。	市の担当者とは運営推進会議以外にも、日頃からわからない事がある時には出向いて、相談したり情報収集を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者一人一人の、身体能力を尊重し、身体拘束しない様、月一回のミーティングで話し合いケアを進めている。	外部講師を招いて勉強会を行っており、身体拘束による弊害を理解し、身体拘束のないケアに努めている。玄関は日中は施錠せず、出入り自由で入居者の方が出られる時は一緒について散歩し見守り重視の対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	日々虐待のニュース報道を耳にする度に、絶対にあってはならない事、してはいけない事だと自負し、全職員が防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の家族の方が、成年後見制度を利用されているので、担当の病院の生活相談員と連絡しながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に詳しく説明をし、改定時には、面会の時や請求書送付時にお手紙等説明をしたり、電話連絡をしている。疑問があった時には、その都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方の話を聞く様に心がけ、家族の方が訪問の際には、利用者の方の話を伝え、家族の方の意見、要望を聞くように努めている。	家族の面会時に状況を報告し、意見や要望を聞くように心がけている。毎月請求書と一緒にホームでの様子を一筆添えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングにより、職員一同で、提案を出し合っている。	毎月のミーティングで職員の意見や提案をだしてもらい改善するように努め、解決できない事は理事に相談するようにしている。また日頃のコミュニケーションからも個別に把握するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員一人一人に、気を配り、相談しやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内だけでなく、外部の研修に参加し、資質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の研修会等に参加し、同業者などと近況などを話しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の方の要望を聞き、安心して日々を過ごされる様に、環境を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の訪問や入所時等で、家族の方の要望や意見をお聞きし、応えられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者、家族が求められるサービスに、応えられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人差は有るが、草取り、洗濯物の畳み等を、職員と共有する関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の状況を理解し、家族と連絡を取りながら、入居者を支えるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす、知人、友人が気楽に遊びに来られるよう環境作りに努めている。	入居者の友人や知人が訪問しやすい雰囲気づくりに努め、ゆっくり過ごされるよう心がけている。	ホームへの訪問支援のみでなく、馴染みの場所など家族の協力を得ながら外出される取組も期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間、食堂に、ソファを設置し、利用者の方が、楽し関られる様にソファに座られる位置も考量している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設、病院等に行かれた場合には、情報提供を行っている。入院時には、病院にお見舞いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何も強制せず、一人一人が、自分の生活リズムで過ごせるように努めている。	一人ひとりに話しかけ、思いや要望を聞くように努めているが、意思表示が困難な方が多くそれぞれのペースで過ごされている。	意思表示が困難な方からも日頃の生活や会話から思いや希望、意向を推しはかり、職員間で話し合い把握し、共有する事にも期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者や家族の方からのお話や、情報提供書等で把握できる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活状況は、変動するので一人一人を見守りながら、状態を把握する様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全体ミーティングや家族の意見、情報等を参考に計画をたてている。	入居時は家族の要望やアセスメントを基に計画作成担当者がプランを作成している。毎月モニタリングを行い定期的に見直しをするよう努めている。毎月、入居者ごとのケアに関する注意事項の一覧表を作成し職員間で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々職員一丸となり、気が付いた事など工夫し合い、一人一人のケース記録や業務日誌に記入し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、家族の方から、要望等があれば、その都度、要望に応じた対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の区長さん、民生員の方が、運営推進会議の委員さんで協力して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、主治医を変更せず、今まで通り受診されている。が、ほとんどの方は、ホームの主治医であり、月2回の往診があっている。	家族や本人の希望するかかりつけ医とし、ホームの主治医は月2回の往診を行っている。専門科は家族の協力を得ながら受診し、報告にて情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置があり、毎日の入居者の健康管理や状態の変化に応じた支援を行っている。看護職員不在の時は、介護職員記録を基に、確実な連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に情報提供を行い、事業所内で対応が可能であれば、看護サマリー等を提供してもらい、早く退院できるようにアプローチしている、		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合の意思確認書を作成し、入居者、家族に事業所内でできるケアについて説明し、署名、捺印して頂いている。	入居時に重度化した場合にホームでできる事・できない事を説明し同意も得ている。医療的処置が必要になった時に、医師の説明を聞き、再度家族の意思を確認し、最大の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や、事故発生時には、あわてず、落ち着いて行動し、連絡をとり、指示を受けて行うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、地域の消防団の方達と連携を取り、昼間、夜間の避難訓練を実施している。	消防署立会いの下、入居者も参加して昼・夜間想定避難訓練を実施している。ホーム独自の訓練をする時は地区の消防団へも呼びかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーを尊重し、言葉遣い、ケアに対してそこわないように、気を付けて対応している。	人生の先輩として人格を尊重した言葉かけを行い、プライバシーに配慮した対応を心がけている。記録類の保管は事務所で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望があれば、相談に来られているので、できるだけ要望に応えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者、一人一人が自分に合ったペースで過ごされるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じて、服を選び、乱れがあれば、手直し、支援を行っている。二か月に一回、地域の美容師さんが、カットしに訪問されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを考え、ホームの裏の畑で採れた野菜などの収穫をしていただき、食べる喜びを楽しんでもらっている。	季節感や好みなどを取り入れながら献立を考え、収穫した食材によって変更することもある。入居者の能力に応じて、下ごしらえや下膳などを一緒に行っている。毎回の食事を写真に撮り、家族の面会時に報告している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個人の摂取量を記録し、入居者の体調を考えながら、適度の栄養と水分を食事とおやつで摂ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歩行ができる人は、毎食後洗面所でうがいや義歯などを洗っておられるが、できない方は、食事などの時、お茶や水分などで口の中を綺麗にしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄が出来る方が、失敗された時など、声掛けし、手助けを行う。排泄が困難な方は、その時の状況を見極め介助を行う様に心掛けています。	自立の方もおられるが、一人ひとりの排泄パターンやしぐさを見て声かけや誘導を行っている。状態に応じて布パンツやパット・紙パンツなど使い分け、トイレでの排泄を基本に自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食物摂って貰ったり、水分補給をこまめに行っている。便秘がひどい時には、主治医に相談し、便秘薬を処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、日中の暖かい時間の午後から行い、入居者様の要望に合った職員を配置し、入浴を楽しんでもらっている。	基本の曜日と時間帯はあるが、汚染時や汗をかいた時などはシャワー浴や清拭などで柔軟な対応をし、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者、一人一人に合った時間に休まれるように声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員が、薬の効能や副作用について説明されているので理解している。頓服については、ケース記録の記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合った食事やおやつを提供したり、散歩等で気分転換をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の体調を考慮し、本人様の希望に沿うように外出できるように支援している。	日常的には希望に応じて近隣の散歩や草取りなどで外気浴ができるよう支援している。手入れの行き届いた芝生がある中庭では花見や家族会のバーベキューなどを行っている。	なかなか意思表示をされる入居者が少ないようです。職員が働きかけながら希望を把握し、家族の協力を得ながらの外出支援も期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者が欲しい物がある場合は、職員と一緒に買い物に行けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があったり、入居者が電話をかけたいと要望がある時には、話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間に季節の花を飾ったり、外の景色が見えるよう、カーテンや窓の開閉にも気を配っている。	玄関周辺には季節の花を植え、和室や共有空間などいたるところにソファを設置し、思い思いに過ごせるよう配慮している。掃除や換気、カーテンの開閉で快適に過ごせる環境づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつでもリラックスできる様に、ソファやイスなどを多く置いてあり、気の合った人と過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使用されている物を持って来ていただき、居心地良く過ごして頂けるように工夫している。	入居前に使用していた家具等を持ち込み、写真を飾ったり、畳を敷くなど以前の生活様式に合わせ居室づくりの支援を行っている。仏壇を持ち込まれている方もおられ畑に咲いた花や御仏飯を供えお参りもできるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の身体状況に合わせて、居間の段差を利用している。その日の、調子を見ながら、見守り介助や全介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	一部の方は、散歩へ出かけたり、草取り等をされたりしているが、一日中、居間でテレビを観たり、眠って過ごされている方もおられる。	難しいと思うが、全員参加で出来ることをしてみたいと思っている。(施設内で)	体調や、天気の良い日に、テラスや芝生で食事や日光浴、レクリエーションなどを楽しみたい。	12ヶ月
2	35	別荘地帯に、ホームがある為に近隣の協力を得られないので、火災、高潮等の災害時の避難できる方法を、入居者、職員で訓練を行っている。	あわてず、怪我をしないように、入居者、職員一緒になって訓練を行う。	消防署、近隣の消防団等に、協力をしていただき、昼、夜の避難訓練を実施して行く。	12ヶ月
3	43	排泄の失敗で、下着やズボン等が汚れたままされている方や、汚れていても気づかれない方もおられる。	尿臭等が有った時には、プライドを傷つけないように、声掛けをして交換してもらう。	自立の方が多いが、トイレが近くて尿漏れされる方もおられるので、尿臭には気をつけてプライバシーを尊重しながら、声掛けをして交換してもらう	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。